

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397500055		
法人名	中部グループ株式会社		
事業所名	グループホーム どんぐりの里 (もも)		
所在地	愛知県弥富市森津9丁目14番地4		
自己評価作成日	平成29年1月7日	評価結果市町村受理日	平成29年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2397500055-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは昨年度に開設されているが、昨年度はホームで十分な体制を整えることができない状況が続いていたが、今年度に入り、管理者が交代したこともあり、段階的に職員体制を整えながら、利用者の入居についても満床に向かって進んでいる状況である。ホームのユニットが平面でつながっていることで、日常的に職員間で連携する取り組みが行われており、利用者の急変時等の際には、ユニット間で連携することができる体制がつけられている。ホームには、広い庭がつけられていることもあり、利用者が庭に出て過ごす機会もつけられており、のんびりと過ごすことができるような取り組みも行われている。また、近隣は住宅が少ない地域であるが、近隣にある幼稚園との交流が行われたり、地域の行事にホームも参加する取り組みが行われており、地域の方との交流の機会がつけられている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年3月1日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="checkbox"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に掲示しているが、職員への意識づけ周知できているかと思うとできていない。	「思いやりの心、敬う心、共感の心」の3つの言葉を理念としており、職員の利用者への支援の基本にもなっている。ホーム玄関ホールに理念をの掲示を行っており、日常的に意識してもらう取り組みが行われている。	理念は職員による利用者への支援の基本でもあるため、開設時から職員が入れ替わっている現状もあり、今後の理念の共有に向けた取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	サロン、カフェなどの活動に参加検討中。近所の幼稚園の方々との交流の場を大切に考えている。	地域の清掃活動をはじめ、地域の行事にホームも参加しており、交流の機会をつくっている。また、ホーム近隣に幼稚園があり、ホームとの交流の機会がつけられており、カフェを活かした取り組みも行われている。	開設以来、地域の方との交流の機会をつくっており、徐々に関係が深まっている状況でも。今後に向けたカフェの取り組み等も含め、地域の方にホームを知ってもらう機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方や現任者向けの認知症をふかめる目的で講師を招き講座をひらいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動の様子、生活の様子をつたえたり、苦情や改善点を意見として頂ける貴重な場となっている。	会議に際には、地域の方の参加が得られていることもあり、地域の方との情報交換の機会につながっている。また、会議を通じて、ホームの行事を見てもらう機会をつくっており、ホームの運営への反映につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議にて市職員の方から意見をいただいたり、必要に応じて相談させて頂いている。	市内の介護事業所が集まる連絡会の際には、ホームからも職員が出席しており、情報交換等の機会につながっている。また、生活保護の方の受け入れも行われており、担当部署の情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	極力拘束については行わないものとしているが、危険回避の理由により、玄関施錠対応はしている。	玄関は施錠されているが、手動で開けることができるため、職員間の見守りが行われており、利用者の様子を見ながらの対応が行われている。また、今後に向けた対応マニュアルや研修等の取り組みを充実させることとしている。	利用者が満床になり、非常勤の職員が増えている状況でもあるため、次年度以降に向けた、職員研修や振り返りの機会が増えることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の知識を深める為、共有をはかる為、マニュアル作成中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等参加してはならず、施設内での研修を行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に確認、説明の後、契約となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	食事の内容の工夫や、苦情についても直接話をうかがったり、意見箱を設置し対応している。	家族も参加する行事の案内を行っており、交流の機会をつくっている。ホーム管理者の他にも、法人代表者が日常的にホームに勤務していることで、意見、要望等に柔軟に対応できるように取り組んでいる。なお、ホーム便りの発行は行われていない。	利用者が満床になり、一人ひとりの家族との意見交換の機会が難しくなってきたこともあるため、定期的な便りの作成等、新たな取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	必要に応じて話し合いの場を設けたり、会議をひらく事もある。	徐々に職員体制を整えてきたこともあるため、日常的な職員間での情報交換等の取り組みが行われており、職員からの意見等が管理者に伝えられている。管理者は法人代表者に報告し、ホーム運営に反映できるように取り組んでいる。	ユニット会議等の取り組みが十分に行われていない現状がある。非常勤の職員も多い体制でもあるため、定期的に意見交換が行える機会をつくる取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	なかなか、理解につながる事はない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部、内部での研修等、可能なかぎり参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	知人、協力を得られる事業所様に相談をしたり、交流の場に参加させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時、入所後、ご家族様や、本人の気持ちを大切に考えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所時、入所後、ご家族様や、本人の気持ちを大切に考えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様の意向をきき、その部分を大切に実現化へと近づけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活能力へとつながる残存能力を活かし生活を共にできるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様と内容を確認し合い、出来る事は力を借りられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様、知人等、ゆっくりと過ごして頂けるよう心がけている。	利用者の入居前からの関係の友人、知人がホームに訪問する機会があり、交流につながっている。家族の協力も得ながら、馴染みの美容院を継続している方もいる。また、家族との食事や買い物他にも、自宅に戻り一緒に過ごすこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間に時に介入する事で輪を保つ事も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	看取りにより亡くなられた利用者様へのお別れ式、ご家族様への心のケアを考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	傾聴や表情から気持ちを考えるよう努めている。	利用者に関する気付き等については、日常的に意見交換を行うことで、職員間の共有につなげている。また、ミニミーティングが行われており、利用者のカンファレンスの機会にもつながっており、意向等の検討につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様の方や入所前の事業所の方へ聞いたたり、確認できる事はしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活状況、心身の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入所前のケアプランをベースに考えさせてもらい、今までの良さを残しながら新しい計画書を作成するよう努めている。	介護計画については、3か月での見直しを行っており、モニタリングについても見直しに合わせて行われている。また、計画作成担当者が変更になっていることもあり、介護計画の様式の見直し等の取り組みも行われている。	介護計画の内容を職員に周知し、その方に合わせた支援と日常的な記録への反映につながるように、今後のホームの取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々気づきはあると思うが、全て共有し把握できている様子はない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々に合わせその時の状況に合ったケアを行うようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議を行い、民生委員、町内会の方々と交流を持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医に情報を伝え、連携をとれるように努めている。	訪問診療専門の医療機関と連携を行っており、定期的な訪問診療や随時の対応が行われている。受診については、家族による対応であるが、ホームでも支援を行っている。また、週1回の訪問看護による健康チェック等の支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問前に事前に送ったり、内容によっては、常時連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、必要に応じて情報の共有は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の方と話し合い、意向や思いを聞き、関係医療従事者の方の助言をいただいたり、協力を得ている。	協力医との連携も深めながら、利用者の看取りに向けた支援も考えており、利用者の状態にも合わせながら、今後の取り組みのテーマでもある。家族との話し合いも行われており、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアル(仮)にて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行っていない。	避難訓練については、職員体制も整ってきたこともあるため、今後の取り組みのテーマでもある。また、地域の方との協力関係の取り組みやホームにおける備蓄品の確保についても今後のテーマでもある。	利用者が満床になり、職員の人数も増えていることもあるため、今後に向けた定期的な避難訓練の実施等、ホームの必要な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	話し方や対応に気を付けている。	ホームの理念に利用者の尊厳への配慮が掲げられており、職員が日常的に意識するように伝えている。職員による対応で気になった際には、管理者からの注意喚起等の取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	傾聴や声かけにて、本人の事を理解したり思いをくめるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを確認しながら、生活に満足して頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様対応で馴染みの美容院へ行かれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材業者メニューに基づき調理行っているが、肉魚等で苦手など聞き、個別変更にて対応している。下膳等も手伝って頂いている。	食材業者のメニューに基づき、ホームでの調理が行われているが、利用者の状況等にも合わせた食事の提供も行われている。また、利用者の身体状態等に合わせた食事形態の提供も行われている。	2ユニットの体制に移行している為、食事の準備をユニット毎に行いながら、利用者が調理や片付け等に参加する機会が増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養、カロリー等、食材業者にて管理して頂いている。水分量はチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に、それぞれできる内容にてブラッシングやうがい、義歯洗浄等行っている。もしくは行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを知るよう努めており、トイレへの声かけ、案内を行っている。	利用者全員の排泄記録を残しながら、日常的な申し送りの時間をつくりながら、トイレでの排泄が継続できるように、職員間での情報の共有が行われている。訪問看護を通じた医療面での支援も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を摂る機会を意識的にもうけるよう気をつけたり、体操や運動による自然排泄を促すよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	本人の体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合は無理には行わず、タイミングをみて声かけさせて頂いている。	1日おきに入浴できるように利用者への声かけが行われており、入浴を拒む方には職員間で連携した対応が行われている。利用者に合わせて職員複数での介助も行われている。また、季節に合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や希望に応じ自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容は職員がわかるようにファイルに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩や行事に参加したり、編み物、絵手紙等、好きな方には行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族様の力を借りて、外食やご主人(家族)に面会に行かされている。	ホーム周辺等への日常的な外出については、職員が増えてきたこともあり、徐々に取り組みが行われている。また、職員間で検討しながら、喫茶外出等の取り組みや季節に合わせた外出支援も行われている。	外出の機会をつくるためにも、市外への外出の機会等、様々な検討が行われている。外出方法の検討を深めながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人様がお金の管理をされている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	気持ちが落ち着かない時、どうしても話がしたいと話したいという時、家族様とその旨確認をしながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁への季節感を出せるような装飾は、その都度考えて行っている。	ユニットのリビングが平面でつながっていることもあり、利用者がホーム内を移動することで、日常的に圧迫感を感じないような取り組みも可能な環境でもある。広い庭があることで、利用者が庭で過ごすこともできる。	ホーム内はシンプルな雰囲気であるため、職員間で検討を深めながら、利用者と一緒に作品をつくる等、今後に向けた取り組みにも期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや食堂の座席配置に気をつけ、仲の良い方々やご夫婦等、気をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人様の慣れ親しんだ品や家族との写真などで、少しでも本人の思い、家族のつながり等、大切にできるよう努めている。	居室については、利用者の意向等にも合わせながら様々な家具類の持ち込みが行われ、好みの空間をつくっている方がいる。その一方でシンプルな雰囲気の居室の方もおり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各所、手すりの設置、バリアフリーになっている。		